

釜ヶ崎越冬小史

第1回から第23回まで

発行者：逃亡者こと内田
発行日：1995年8月15日
印刷：遊星プリント
定価：500円

釜ヶ崎越冬小史

この越冬小史は、21回、22回の「日刊えっとう」に連載された内容に、総括集編集の段階で紛失した16・17・18・19回の越冬斗争の分をもう一度書いて、第1回越冬から第23回越冬までをまとめたものです。
更に“小史”を釜ヶ崎入門編というようなものにしようと思い、1961年暴動以降の年表を付け加えています。(主に釜日労の斗いを軸に)

※注：年表について……

「新聞記事の紹介・引用などの文章内容については、表現が労働者の視点からのものになっていない。考えて書き直すのがめんどくさかったからです。ご容赦されたし」

前史 (年表)

(昔の事を調べ出すと切りがないので、第1次暴動からざっと紹介する)

1961 (昭和36) 年

- 8月1日 釜ヶ崎第1次暴動。
交通事故の被害者に対する警察の対応をめぐる、投石騒ぎとなり、5日間の暴動となる。3日には労働者1名が死亡。「暴動の街・釜ヶ崎」を全国に知らしめた、あまりにも有名な事件。
- 9月1日 大阪府労働部西成分会、設置される。
仕事の紹介を開始するが、早くも11月には分室が認めた“公認手配師”による暴力事件が頻発する。
- 9月17日 全日自労大阪支部釜ヶ崎分会、結成される。
- 12月3日 全日自労釜ヶ崎分会、「応急宿泊所」設置を要求して西成分室前で座り込みを行なう。
- 12月30日 東萩町公園(三角公園)に「無料宿泊用テント三張」開設。
全日自労が管理運営した。

正誤表

ページ/行	誤	正
p1 / 1968行	大阪府労働部西成分会、……	大阪府労働部西成分会、……
p7 / 3~4行	5月1日 第1回……不許可となる。 (下の写真参照)	[1970年の年表(註)4ページに移す] [削除]
同 / 5行	71年釜ヶ崎第一回ミーナーに集まった労働者たち	71年釜ヶ崎第二回ミーナーに集まった労働者たち
同 / 1966行	新政党の与党、に押しかけ、……	新政党の与党(注)に押しかけ、……
p15 / 13行	第1回労働者夜間学校。	[削除]
p22 / 1968行	1977年5月、認定支給額は……しかし	
p24 / 2行	山谷暴動(マツモト交番糾弾斗争)。	山谷暴動(マツモト交番糾弾斗争)。
p38 / 14行	……、釜ヶ崎越冬斗争史が……	……、釜ヶ崎斗争史が……
p40 / 1964行	「大喪の礼」反対でも決行。……	「大喪の礼」反対でも決行。……
p61 / 17行	三角公園→境筋北上→市庁へ。	三角公園→境筋北上→市庁へ。
p77 / 17行		

12月31日 仕事にアブレた労働者400人が分室につめかけ、「年が越せない、寝るところもない」と騒ぐ。全日自労が間に入り、50名が「梅田厚生館」「東成寮」に収容される。

1962 (昭和37) 年

1月31日 文芸グループ「裸の会」発足。(西成署の後押し?)
この年 あいりん学園(後に新今宮小・中学校)
あいりん会館
あいりん銀行(あいりん貯蓄組合) 設置。
10月1日 財団法人西成労働福祉センター開設。(労働部西成分室を発展させたもの)
12月31日 野宿労働者を「梅田厚生館」「なにわ寮」「自彊館」へ収容。
1月3日まで、延べ363名に達する。

1963 (昭和38) 年

5月17日 第2次釜ヶ崎暴動。
夜勤の求人車に我れ先に飛び乗っているのを見たパトカーが、暴動と勘違いしたことが発端。雨でアブレが続いていたこともあり、200人が投石などを繰り返す。
12月31日 第3次釜ヶ崎暴動。
早朝、労働者4人が「仕事をくれ」と騒ぎ出し、市バス、パトカーに投石。

1964 (昭和39) 年

1月1日 アブレた労働者を「梅田厚生館」「自彊館」「なにわ寮」へ収容。
3日まで延べ299人。
この年 福音ルーテル教会、ドイツ人宣教師ストロームさんが託児所を釜地区内に開設。
12月29日 年末年始医療対策実施、1月3日まで。

1965 (昭和40) 年

この年 今宮生活館開設。
3月15日 第4次釜ヶ崎暴動。
労働者と酒屋のけんかが発端。500人が騒ぎ、西成署玄関に投石。

1966 (昭和41) 年

5月28日 第5次釜ヶ崎暴動。

暮会所の火事を見物していた労働者が「消防車に来るのが遅い」と騒ぎ、約300人が南海阪堺線の電車を止めたり、パチンコ店、乗用車に投石、更に警官を襲いピストルを奪い、交通警官詰所に放火したりして、29日未明まで騒ぎとなる。

29日夜、暴動再発。大丸パチンコへ投石したのがきっかけで大きくなり、17名が逮捕されるも、30日夜も4000人が投石。

6月21日

第6次釜ヶ崎暴動。

酔った労働者とパチンコ店員のけんかから騒ぎとなり、約千人が付近の商店、民家のガラスを割り、警官隊に投石。

22日夜も、

車、ドヤに投石をくり返す。

8月

大阪府連絡会議で「釜ヶ崎」を「あいりん地区」と改称。

8月26日

第7次釜ヶ崎暴動。

果物屋で「スイカがいたんでいるので代えてくれ」と口論になり、1200人が騒ぐ。

1967 (昭和42) 年

6月2日

第8次釜ヶ崎暴動。

東入船町(現在の萩之茶屋1丁目)の丸福食堂で、勘定が60円不足していたことで店員が労働者をドツキまわしたのを見た労働者が、この店を糾弾したことに始まる。

警察は大々的鎮圧体制をとり、それに抗議する闘いが数日間続いた。

「一般地区であれば60円のメシ代が不足しても“借りる”こともできる。だが釜の現金(日雇)生活は、金がなければ生きてゆく事が出来ないという資本主義の残酷性にあからさまに貫かれており、又労働者の怒りも鋭く、反抗の、そして解放の要求も身近で、根本的なものである」

—怒りの炎を燃やせ・西成分会の闘い(1974年パンフ)より

1968 (昭和43) 年

12月28日

大阪府・市、「愛隣地区年末特別対策」実施。

12月30日

労働福祉センター、「年末宿泊所」斡旋324名。

1969 (昭和44) 年

5月23日

全港湾関西地方本部建設支部西成分会結成。

当時のスローガンは、

●8時間労働、2200円よこせ! オールナイト(たぶん港湾荷役の夜勤)6050円よこせ!

- 休業補償は日当満額、休日労働は2割5分増しに!
- ドヤ代下げろ、ナンキン虫なくせ!
- 天井2メートル10センチ、建設基準法守れ!
- センターに風呂作れ、住宅に入れよ!
- 無料宿泊所建てよ!

など。

(一説に、全港湾のストに釜の労働者がスト破りとして動員される現実が日雇の組織化につながったと聞いた)

昔の事を調べていて感じたのだが、キリスト者の息の長さには驚く。愛徳姉妹会が釜で活動を始めたのは1933(昭和8)年である。釜に組合ができる、なんと28年も前である。

1970(昭和45)年

- この年 釜ヶ崎キリスト教協友会結成。
日本キリスト教団・金井愛明牧師
カトリック、フランススコ会・ハインリッヒ神父
愛徳姉妹会シスター
等5団体。(1995年7月現在、10団体)
- この年 万国博覧会、大阪で開催。
3月15日 万博粉砕現地斗争。
67名逮捕、14名起訴。釜ヶ崎からも参加。関西解放戦線、反安保キリスト者連合など。
- 3月16日 万博工事死亡者の追悼会。(三角公園にて)
主催、西成分会
釜ヶ崎解放戦線(1970年3月結成)
釜ヶ崎大学(機関紙「あおぞら」発行。昨年5月より、釜地区で労働者解放と、差別撤回を訴える)
- 4月1日 あいりん労働公共職業安定所開設。
10月1日に現庁舎に移転。
- 10月1日 あいりん労働福祉センタービル発足。(現センター)
- この年 大阪社会医療センター発足。
- この年 平均賃金、土木雑役約2000円。
- 11月15日 日雇失業保険適用開始。(白手帳発行)
翌71年には3000人を超す。
アプレ手当760円、1日約300人受給。
11月2日付の朝日新聞によると、
「10月1日にセンターが開所してから職安と、福祉センターが

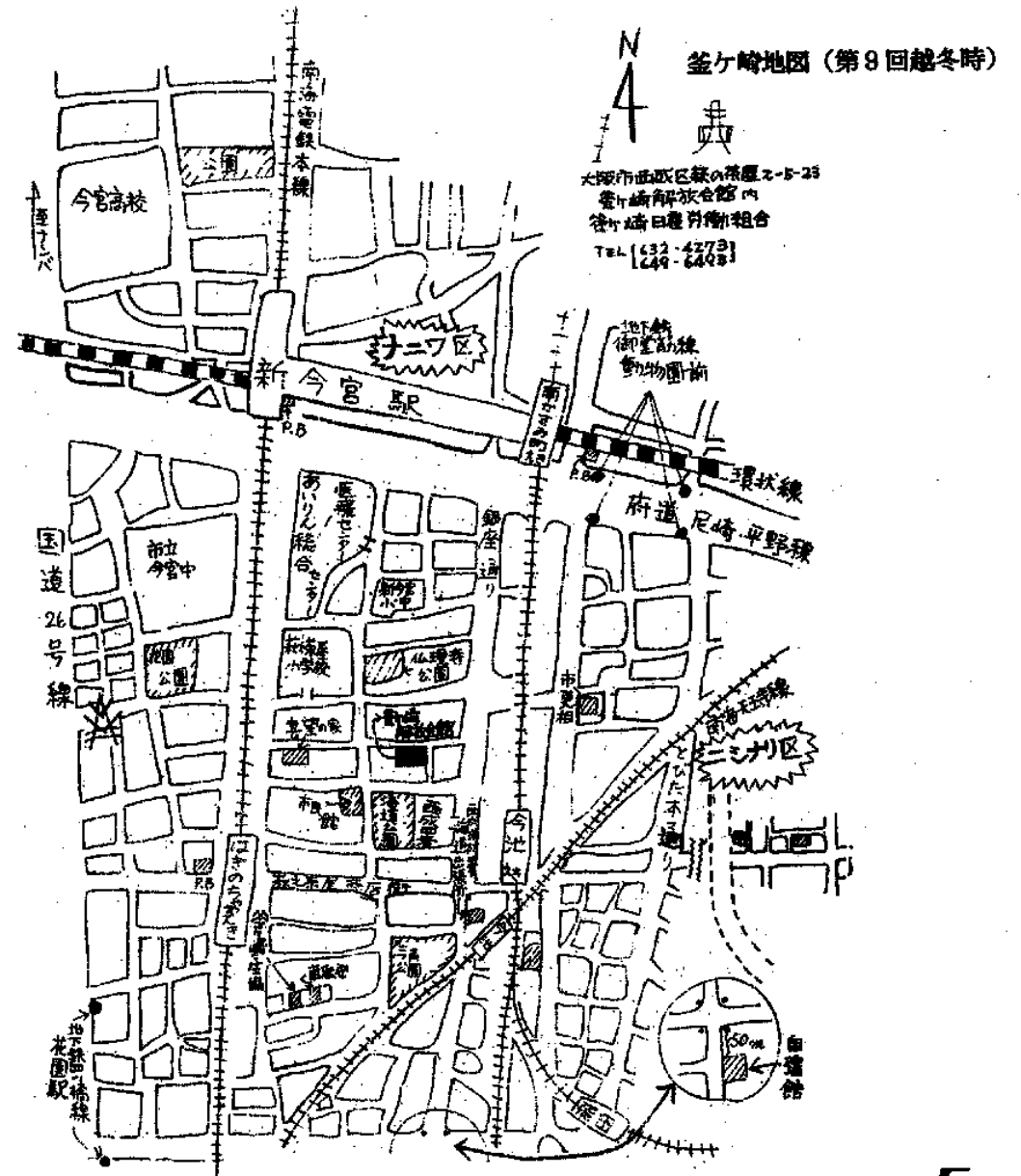
同じセンター内で、就労を紹介。職安紹介の仕事は、日当が同労働福祉センター紹介の場合よりかなり安いというえ、受給資格をとる手続きがわずらわしいというえ……」と、当時の職安が仕事を紹介していた事を報じている。

12月8日 就労申告書制度発足。

12月30日 第9次釜ヶ崎暴動。

センター詰所焼打。

朝仕事にアプレた労働者ら1500人がさわぐ。内、半分はセンターの厚生部長らを追及、詰所に放火、2階事務所にも上りこみロッカーを倒すなど。半分は機動隊に襲われて逃げ、時計店、ドヤなどに投石する。(万博後の不況で賃金も下がる。)



「ひとりの仲間も死なすな！ 仲間のいのちを仲間の団結でまもりぬこう！」。年末年始の野宿・野たれ死攻撃から仲間のいのちをまもり、殺人行政と権力に反撃していく越冬の斗いも、21回目をむかえる。ことしは、10月の暴動決起で労働者の底力を示しきった年だ。この力を引きついで越冬も斗いぬこう！

そのために、今年は、1回目からの越冬斗争の歴史をとらえかえし、学習していこう！

(「日刊えっとう」編集部)

—日刊えっとう第2号(90.12.26)より

第1回越冬(70~71)

万博景気が終わり、景気が落ち込み、物価の値上がり、そして年末～年始の仕事の減少(この頃は、年末年始に仕事がなくなるというのが当たり前だった)が、日雇労働者の生活を圧迫していた。

全港湾西成分会(1969年5月23日結成)が中心となって、年末・年始の就労確保、緊急保護の完全実施などを要求して、行政斗争を闘うも不発(中途挫折?)。西成分会とは別に、諸団体・個人(西成分会員もふくむ)が“釜ヶ崎越冬対策実行委”を結成、日雇労働者の医・食・住の問題に取りくむこととなる。この西成分会有志が、後に釜共斗(暴力手配師追放釜ヶ崎共闘会議)結成の有力メンバーとなるのだ。

四条ヶ辻公園(花園公園)で、炊き出し・医療活動などを行なう。

獲得目標は、

1. 仲間うちから、餓死者・凍死者・行路病死者を出さない。
2. 共同生活を通じて、社会主義的積極性を育成する。
3. 行政追及の具体的な裏付けとする。
4. 外部支援の人々が、釜ヶ崎を理解する一助とする。

であった。

当時は、公園で、テント設営・たき火・炊き出しなど、ある程度自由にできていたと思われる。

しかしながら、越冬総括として、「越冬村」の人員増加にともない、メンバーの負担が増し、援助する者と、受ける者との「二分化」の進行が反省点としてあげられている。

1971(昭和46)年

- 4月 「裸の会」解散。
- 5月1日 第1回釜ヶ崎メーデー。
主催、西成分会。釜地区内のデモは不許可となる。
(下の写真参照)
- 5月25日 第10次釜ヶ崎暴動。
夜勤の求人が不公平だとして百数十人が騒ぎ、電車で求人先の会社へ行き、解決金を取って帰る。夜、「賃金が安い」「手配師が悪い」などと叫び、西成署前で1000人が騒ぐ。
- 6月13日 第11次釜ヶ崎暴動。
ドヤ「日の本」の管理人が労働者を殴ったのがきっかけで1000人が騒ぐ。悪質ドヤに怒りが集中。
- 8月 愛隣会館と中央更生相談所を統合し、大阪市立更生相談所として事業開始。
- 9月7日 福利厚生資金(ソーメン代、モチ代)支給開始。
- 9月11日 第12次釜ヶ崎暴動。
果物屋店員と労働者がけんかになり、300人がさわぐ。
- この年 賃金、建設約2300円
港湾約2400円



71年釜ヶ崎第一回メーデーに集まった労働者たち

写真説明:「手配師人夫出し追放」「ドヤ賃下げる」「日当3000円以上!」「センター住宅に日雇を入れる!」に加えて、「女房返せ」「女をよこせ」「パチンコ出せ」のスローガンもある。

(全港湾関西地本建設支部「釜ヶ崎に運動場つきの中小学校を建てろ!」)

第3回越冬(72~73)

この年の5月、鈴木組斗争がきっかけとなり、3日つづきの暴動がおこる。そして6月1日、暴力手配師追放釜ヶ崎共闘会議(釜共斗)が結成され、暴力手配師・悪質「業者」・ヤクザへの大反撃が開始される。反撃の内容は、ここではふれないが、センター・三角公園・労働現場を、大衆的な力で制圧した。

11月14日、関西建設斗争での33名逮捕から、権力の弾圧が強化され、越冬対策実行委がテント村(12/25~1/4、花園公園)を設営した直後の26日、水崎町派出所爆破の件で、赤軍のメンバーが逮捕される。

同日、センターで爆破事件が起こり、後にデッチ上げで2名が起訴される。

- 12月25日 花園公園にテント設営
- 26日 訪中報告会
信濃忍拳の演舞
- 29日~30日 モチ代カンパ、計24121円
- 30日 映画「反国家宣言」上映
- 31日 三角公園で、のど自慢大会
- 1月1日 もちつき大会
もちをつまらせて老人が死亡
- 2日 映画「クチの斗い」「パリの五月」
- 3日 ソフトボール大会
映画「アイヌシヨタビリ」「黒神」
夜、野宿者2名死亡
- 4日 テント撤去し、市役所、西成署への抗議行動
(4名の不当逮捕、1名に対する暴行)
夜、総括集会「テントはなくとも越冬の意義—『一人の仲間も殺させない』—を引きつづき生かそう」

第3回越冬の特徴は、一時金要求斗争である。釜共斗の斗いの成果を背景に、建設業者・手配師・ドヤ主・飲食店などに対し、“日雇労働者の生き血を吸って、肥え太った収奪分の一定の返却=越冬斗争資金分担要求”(『新左翼』紙1972年12月25日号より)とする、カンパ活動である。

一方、行政斗争としては、「手帳持ち労働者のみの年末一時金支給(モチ代)糾弾」というスローガンがあげられている。

当時のモチ代は、12月29~30日に支給され、(72年は3200円)“文字通り年末一時金”という性格を持っていたのだ。

また、日刊えっとう(25~4日)には、「地下タビ訪中期」が連載され、“社会主義中国”の紹介がされている。

1973(昭和48)年

この年、石油ショックによる不況。現金、飯場まるでなし。

- 1月25日 西成分会、労働省と大衆団交。
○アブレ手当(認定)を1500円にせよ
○あいりん職安に就労紹介させよ!
- 2月20日 タコ部屋・清掃会社摘発される。
西成区東田町の阪南興業、暴力団酒梅組系高谷組が沖縄少年らを集め、タコ部屋生活させピンハネを行っていた事実が明らかになった。
- 4月30日 暴動。
- 5月22日 釜ヶ崎原爆被爆者の会結成。初代会長、中村氏。
- 6月14日 西成署前で暴動。
- 6月28日 京都タコ部屋・暴力業者、山岡建設をめぐる、京都市開発局を迫及、市庁舎内団交を要求。
現場でドロ水を飲まされるなどの強制労働をさせられた労働者が告発。京都市の「都市開発」なるものが暴力飯場を基礎に成り立っていた事が露見。市職労から連帯の声があがる。
- 7月4日 団交が予定されていたが、京都市は機動隊を配備しロックアウト。
7月23日、京都の学生などの協力で再度団交要求。市庁玄関前で2名がハンスト突入。
7月24日、機動隊によるハンスト強制撤去。戒厳体制。
7月26日、代表交渉を認めさせる。
7月31日、市当局が「市をなめるな」等暴言をはき、機動隊を導入し、一切の話し合いを閉ざす。
- 8月13~15日 第2回釜ヶ崎夏祭り。
釜共斗主催。
テーマは“まつりはまつりだ、ワッショイ”
出店、中国物産店など。
第2回はヤクザに代わって、西成署が祭り破壊をねらう。みこしの列にポリ公が襲いかかり、2名不当逮捕。盆踊りの最中にも会場になだれ込み、労働者に重傷を負わせるなど妨害をくりかえす。
- 10月14日 一時金交渉が難航。2700円支給が9月末に決まる。
当日7000人が受給。総額約3000万円。
大阪建設業協会 40%負担
大阪府 30%負担
大阪市 30%負担
- 10月20日 釜ヶ崎生協設立準備会、発足。牛乳等販売開始。
“あいりん子供を守る会”、釜共斗有志の賛同による。
- 11月11~12日 ドヤで1名、アオカン2名が死亡、不況であぶれが続く。

第4回越冬(73~74)

- 11月 (西成労働福祉センター調べ)
平均賃金 4000円
ドヤ代 200~300円
小メシ 50円
- 11月22日 無縁仏慰霊祭。
主催、西成愛隣会(片山会長)。(三角公園にて)
この年の無縁仏55人。
- 12月28日 冬季福利厚生資金支給、4200円。(昨年より900円増)

- (a) 釜ヶ崎における冬とは、日本資本主義の構造的矛盾、社会的困窮の季節的表現であり、労働者階級としての悲惨、困窮、圧迫の総体が正月を軸にして集中するということであり、不要になった労働力商品が凍死、餓死、病死という表現でもって処理されてゆくということなのだ。そして、それらの死体さえも医学部の解剖用モルモットとして最後の最後までブルジョアジーに奉仕させられるということなのだ。
- (b) 「生きて奴等に仕返すぞ!」という越冬のスローガンは、資本の苛酷なゲバルト搾取、収奪制度に対する釜ヶ崎労働者のギリギリの不退転のもっとも道理にかなった普遍的なスローガンであり、難民キャンプとも呼ぶべき炊き出しとテント村を基軸に据え、出撃拠点とするところの越冬闘争こそ、生産手段を奪われ国家権力に包囲された釜ヶ崎労働者の“冬”に対する抵抗の現代的表現なのだ。そして、この炊き出しとテント村の現実こそが、あらゆる美辞麗句を用いて制度を善めたたえる御用学者を告発し、又、テント村を軸として展開される“暴動”こそがマルクス主義からあらゆる抵抗の響きを奪い去ろうとし、人民大衆を武装解除しようとする修正主義者への破産宣言なのだ。(資本主義批判としての越冬の現実から資本主義打倒へ!)
- (c) 72年5月28日の対鈴木組闘争から、その後不屈に闘い抜かれた現場闘争の中から生み出された戦闘的青年労働者の組織釜共闘が、只単に青年労働者の利益のために闘うだけではなく、資本によって労働力商品としての価値を否定された病人、老人、資本の自己増殖の過程で廃人にされたアル中たちを引き受けようとしたこと、否、彼らに参加できる形で共に闘おうとしたこと、そして、敵と対決し、打ち勝つために衣食住総体の労働者階級の問題を解決しようとしたこと、これが越冬闘争の意味である。

(船本洲治『やられたらやりかえせ』100ページ~101ページより)

石油ショックと慢性的インフレが、労働者の生活を圧迫。私自身も、昼勤も夜勤も5千円という超ケタオチ飯場に行ったりしたものです。

この回から、越冬対策ではなく“越冬斗争”として位置づけられ、

○一人が皆のために、皆が一人のために

○病人・老人の利益を第一に

○黙って野たれ死ぬな! 生きて奴らにやりかえせ!

のスローガンのもと、「越冬斗争実行委」が結成され、11月12日には労働部、民生局に要求書を提出。

○仕事をよこせ!(当時、山谷では、すでに特別公共事業が出ている)

○無料宿泊所を完備せよ!

○釜から行ける救急病院をふやせ!

12月17日、団交拒否に抗議。府庁前でハンストに突入。

そして、29日に花園公園に設営されたテント村を出撃拠点として、行政班による、無料宿泊所での改善斗争が始まる。

藤沢会館(信太山)では下請・管理していた救世軍による食事前の賛美歌強制をやめさせたし、市立労働会館(森の宮)では、「1週間でたった8本のタバコ配給」に対する怒りから要求斗争がおこり、団結・組織化を勝ちとる中で、1日1箱の支給になった。そして、1月4日で締め切られる事に対し各宿泊所の仲間が「仕事をせよ。さもなければ宿泊所を延長せよ」の要求で一致し、民生局との団交で全5ヶ所施設の10日までの延長を確約させた。

更に1月5日には宿泊所・テント村・釜の仲間が、府庁に対し「仕事よこせ・特別公共事業を起せ」の大デモ(300名)を貫徹。当時の“革新府政”への異議申し立てという重大な側面を持つこの行政斗争は大きな社会的反響をもたらしたのである。最後にこの時大活躍した行政班の有志がのちに、釜日労を結成することを付け加えておく。

他方、1月3日労働者がテント村から大和中央病院に運ばれたがまともに診てもらえず追いかえされた事に抗議、団交を勝ちとり、事務局長から自己批判書を取る。(一日刊えつとう1月4日号医療班報告)

1974 (昭和49) 年

- 3月2日 大阪市、「労務者」は差別用語と認める。
西成分会が公文書の差別を抗議。
- 3月7日 前年のセンター爆破事件で釜赤軍の3名が逮捕される。2名指名手配。(後に無罪判決)
2月19日から始まった爆取デッチ上げ弾圧により、合計8名が逮捕される。
- 3月9日 日中友好協会(正統)西成支部釜ヶ崎班、「釜ヶ崎日中通信」創刊号。
- 4月25日 釜ヶ崎赤軍、ラーメン屋閉店。
- 5月1日 第5回釜ヶ崎メーデー。
三角公園→大阪城公園へ。主催、釜共斗。
○4500円以下の賃金をなくせ
○釜労働者に低賃金公営住宅を!
など。
メーデー会場で釜共斗130名、主催者側との乱闘となる。総評ダラ幹に抗議の為演壇を占拠、日共警備隊と私服がおそいかかる。
- 5月24日 西淀川区のタコ部屋手入れ。金田組、職業安定法第63条違反。
監禁・暴力による強制労働で摘発。65名が救出される。
- 6月9日 センター爆破デッチ上げ弾圧粉碎の大衆集会。(三角公園)
- 6月10日 爆取初公判。釜から地裁まで抗議デモ。
- 8月13~15日 第3回夏祭り。
警察による、やぐらへの不当捜査・不当逮捕・過剰警備・挑発等がくり返されたが、祭りを貫徹。
- 10月×日 釜赤軍若宮氏、大拘にて「獄中組合」の提起。
- 10月14日 仕事要求斗争準備会発足。
釜中を「仕事よこせ」の大衆情宣。
- 10月23日 仕事よこせ労働者集会。(市民館)
準備会を仕事保障期成同盟へと改組。
- 11月30日 期成同盟による府市抗議行動。
知事室を実力占拠、仕事よこせの行政斗争を闘う。
- 12月28日 モチ代(冬季福利厚生資金)支給、4200円。
- この年 あぶれ手当(認定)1600円。土木雑役3800円。

第5回越冬(74~75)

1974年、3月愛隣センター爆破でつち上げ弾圧を頂点とする権力の釜共斗つぶしで運動は停滞と混迷をむかえていた。

昨年来続く不況の中から、行政班有志で、10月「仕事要求斗争準備会」が結成され、「仕事よこせ」は越冬斗争へと引き継がれていった。

この年、宿泊所斗争は大きく盛り上がる。(「最後の宿泊所斗争」となるのだが。)

藤沢会館(信太山)、長柄寮(天満)を始めとして次々と斗争委員会が結成される。そして仕事を出させるまで居すわって闘う方針が確認された。仲間の追及に対し、役人は居直り、そしてトンコ、権力の導入を繰り返した。

1月4日、宿泊所・テント村の仲間が合流、市庁へのデモ、市長室占拠で反撃。
更には、越冬をやらない西成分会への抗議、社会党大阪府本部(当時革新府政の与党、に押しかけ、社会党の裏切りを糾弾、「革新」の本性を暴露していった。

11日、居すわる仲間に出立ち命令が出され、天満では25名の仲間が強制排除、2名が逮捕、信太山では十数名が強制排除され、「最後の宿泊所斗争」が終わる。

この間テント村では、54人医療センターへ行って、12人が結核だったという驚くべき事実が報告されている。

12日、この日テント村はいったん閉じられた。しかし、釈放された行政班の仲間がテント村を再建、約40日間の第2次越冬斗争を闘うことになる。
12日いったん閉じられたテント村は、行政班有志によって、15日に再建された。

年があけても、景気は一向に回復のきざしを見せず、センターに求人バスが1台も来ない日がつづく。テント村を基地として、文字通り、生きるための闘いが、続けられた。

1月16日、「仕事よこせ」「職安は仕事を紹介せよ!」大阪府に抗議デモ、黒田知事に団交要求。

21日、公園局の「公園明けわたし要求」を無視して、居すわって闘うことに決まる。釜ヶ崎労働者の切り捨て、殺人行政糾弾!連日センターへの「仕事よこせ」のデモ、梅田地下での情宣・カンパ活動が続く。
しかし、長いテント生活から、老人・病弱者が続々と倒れていく。だが「ベッドがない、施設は満パイだ」。市更相や病院は情容赦なく、テント村の住人を追い返した。「病人を病院に入れろ」は、斗争のもうひとつのスローガンとなった。

2月14日、テント村の結核患者が中心となり、「結核患者の会」が結成され、保健所・民生局などと交渉を続け、ついには市更相を通さず、入院をかりとることに成功している。

24日、市による「強制収用」の通告、バリケードを築き、臨戦体制に入る。

25日、七百名の機動隊による“テント村の搜索”という名の弾圧。
4名逮捕。

26日、千百名の機動隊導入。
前日の“搜索”によって武器を奪われるも、体制を建て直して迎えうつ。バリケード内には、赤ヘルをかぶった80名の労働者が立てこもり、“くそ爆弾”を投げて徹底坑戦。多くの釜の労働者が見まもる中、14名が逮捕。テント村は強制撤去され、40日間にもおよぶ第2次越冬斗争は終る。
(なお、この40日間、日刊えっとうにつづく形で「テント虫」1/18~2/26が発行されている)

1975 (昭和50) 年

3月10日 ドヤ「千成ホテル」火事。
死傷者64名。建築基準法違反の不法建築・消防法違反。投石防止用の窓の金網が被害を大きくした。
(暴動の時、ドヤの窓ごしに物を投げつけられる事が多く、西成署がドヤに金網とりつけを指導していた)

4月11日 老人給食センター「わかや食堂」開設。
フランススコ会、ハインリッヒ神父ら運営。

5月1日 第6回釜ヶ崎メーデー。
釜共斗の部隊を二重三重に包囲し威圧。総評指導部は釜共斗を排除する。

5月11日 市立愛隣寮(西成区太子1丁目)閉鎖。
1961年の翌年に大阪市がつくった低家賃公営住宅。入居希望者がさっぱりで閉鎖となったが、単身者は入れない事や、住民票、保証人が必要である事などが原因。

5月27日 越冬実(釜共斗)主要メンバー、3ヶ月の長期拘留から保釈をかりとる。

6月25日 センター爆破で指名手配された船本州治が沖縄米軍嘉手納基地前で、海洋博粉碎、皇太子来沖阻止を叫び焼身自決する。
7月4日、釜で人民葬が行なわれる。

7月31日 三木訪米阻止、羽田現地斗争に向け、決起集会。(三角公園) 400名結集。22名、現地へ上京。
8月1日、全国決起集会(東京・清水谷公園)に参加。
8月2日、羽田現地斗争に決起。

8月12日 夏祭りで、釜地区内をまわるみこし不許可となる。
さらに公園局が「2月26日のテント村強制撤去の費用300万円を支払え、払わなければ三角公園の使用を認めない」という妨害をしてくる。
釜の子ども達も公園局を糾弾。市はしぶしぶ使用を認める。

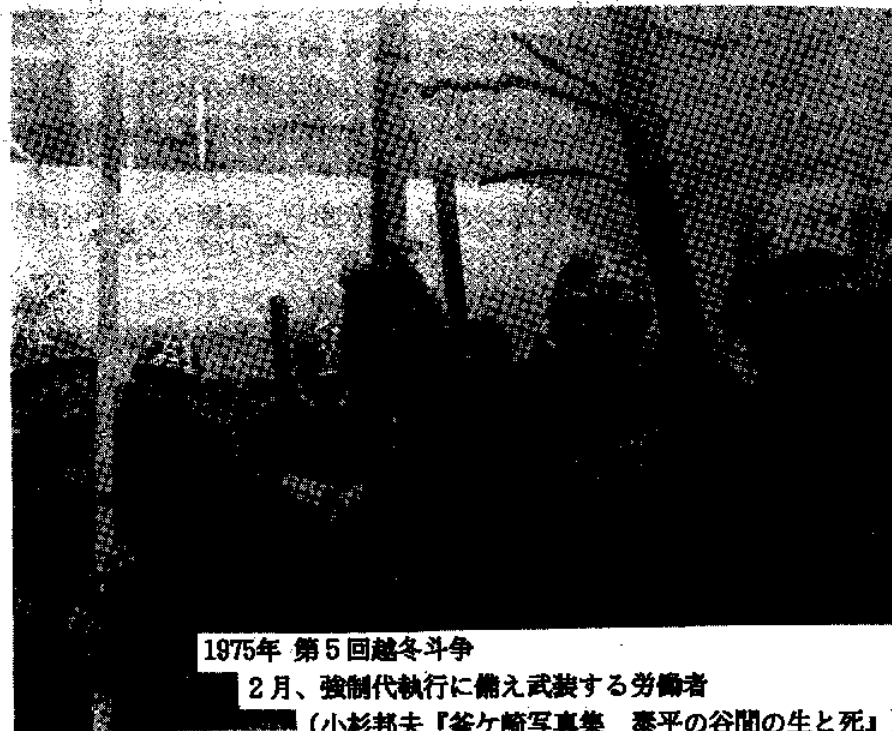
8月13~15日 第4回釜ヶ崎夏祭り。
(代表、稲垣浩)
15日夜、終了まぎわに、不許可となったみこしを出そうとする労働者に、西成署の妨害が入り、こぜりあいとなり2名逮捕される。

8月×日 信濃忍拳(空手)の合宿、静岡。
山谷・釜・寿などから労働者、活動家の参加あり。

9月30日 天皇訪米阻止羽田現地斗争。
前段、29日の三角公園での決起集会の後、西成署の弾圧があり、3名逮捕される。
羽田現地斗争貫徹の後、三里塚で2日間の援農活動。

10月31日 狭山差別裁判糾弾・寺尾判決1周年糾弾中央集会へ、3名が代表派遣。
同対審狭山浪速青年共闘の隊列に参加。

12月25日 初代勝利号(バス)購入。



1975年 第5回越冬斗争

2月、強制代執行に備え武装する労働者

(小杉邦夫「釜ヶ崎写真集 泰平の谷間の生と死」)

第6回越冬(75~76)

この年、慢性不況、物価・ドヤ代の値上がりが労働者の生活を圧迫する。政府発表で失業者100万人。11月末には早くも越冬実が結成される。

11月29日、突入集会。

12月1日、市長・府知事に要求書提出。

- 特別公共事業を起せ!
 - 公共事業に釜の労働者をやとえ!
 - 結核患者を入院させろ!
- など。

4日、花園公園使用不許可の通知がくる。

10日、不許可を無視し、公園でたき火、炊き出し(弁当)開始。

以後、“テント村つぶし三角同盟”(大阪市・西成署・大池商事=下請け)との攻防が続く。西成署は、たき火を消し、監視カメラを取りつけ、テントがはれずアオカンしている労働者を24時間監視し、抗議するものはかたっぱしから連行した。大池商事は市の要請・西成署の協力を得て何度も、たき火・ふとんを持ち去った。こうして殺人行政は次々と労働者を殺した。

19日、公園で1名衰弱死、20日焼身自殺、21日には3名の“野たれ死に”が確認されている。

29日、無料宿泊所の受け付け開始。

この年から南港が中心となり、機動隊が常駐、入る条件も、白手帳持ち・50才以上としめつけ強化。

年を越しても三角同盟の弾圧をかいくぐって、「仕事よこせ」職安デモ、「テント張らせろ」対市要求斗争は続けられた。

1月がすぎ、2月に入っても求人はほとんどなく、あっても2年前の単価・顔付け・飯代の値上げ等、条件は悪化の一方。

テントが張れず、アオカンを続けながら、炊き出し・医療・カンパ活動・対市デモと斗争は続く。

3月1日、越冬実が釜ヶ崎仕事保障斗争委員会と名称を変更。

6月14日、強制撤去されるまで仕事よこせの斗いは続けられた。

この斗いが釜日労結成へとつながっていくのである。

1976(昭和51)年

この年は、3年続きの不況で慢性就労難。

- 1月28日 狭山上告審斗争大阪集会(扇町公園)に越冬実70名が参加。
- 2月16日 鈴木国男(釜共斗構成員)、大拘保護房内で虐殺される。後に国賠訴訟で勝訴。
- 3月1日 越冬実を仕事保障斗争委員会と名称変更。
- 4月3日 三大寄せ場合合同で労働省交渉。
 - 山谷自立労組
 - 寿日雇労働者組合
 - 釜ヶ崎仕事保障斗争委員会
- 4月1日、仕事よこせ現斗団20名編成、2日、寿生活館到着、3日早朝、山谷玉姫職安前結集、労働省へ。
- 5月1日 第7回釜ヶ崎メーデー。大阪中央メーデーに30名で参加するも排除される。
 - ロッキード事件糾弾・自民党政府打倒!
 - 仕事よこせ! 手配師追放!
- 5月15日 沖縄解放決起集会(大正区沖縄会館)へ16名参加。
- 5月22日 石川さん不当逮捕13年糾弾大阪集会(扇町公園)に60名参加。
- 6月1日 市による花園公園立ち退き勧告。
- 6月5日 仕事よこせ、強制立ち退き阻止決起集会。(三角公園)200人参加。支援労組も参加。
- 6月8日 釜生協(南職安近く)のそばで仕事保障斗争委員会のメンバー1名刺殺され、1名重傷。(ヤクザによる犯行か?)
- 6月14日 仕事よこせ斗争の拠点である花園公園に強制立ち退き。機動隊を動員し、作業員70名がショベルカー、ダンプカーで小屋をつぶし、タンス、水屋、米、麦まで持ち去る。
- 7月1日 釜ヶ崎日雇労働組合結成。(仕事保障斗争委を改組)委員長、稲垣浩。
- 7月5日 悪質飯場、前川土木斗争(姫路)、バス勝利号で飯場を急襲。
- 7月9日 前川土木、辰巳興業、橋本建設、堀工業、松崎組の代表2名が組合をおとずれ、労働条件の改善を確約。
- 7月12日 勝利号で65名が兵庫県高砂市の半ダコグループの一つ松崎組を糾弾。
- 7月22日 暴力飯場、大久鉄筋(泉南)斗争。勝利号で50名、泉南の飯場に向かう。大久の親父、世話役らはピン、バットではげしく抵抗。
- 7月23日 発注者である大阪府に、「府と元請(奥村組と南海建設)は工事から大久組をはずせ」と追及。
- 8月4日 府は、大久組(あるいは大久鉄筋)がおどして被害者に書かせた

「大久組は家族的動きやすい飯場だ」という証文をタテに居直る。基準局や「あいりん職安」も責任逃れをくりかえした。

8月13～15日 第5回釜ヶ崎夏祭り。
700名の機動隊、私服が三角公園を包囲する中、祭りを貫徹。

8月19日 ミニコミ誌「労務者渡世」（一部100円）単行本となる。
（朝日新聞）

9月7日 三大寄せ場組織による労働省斗争。
釜・寿・山谷の仲間250名が労働省を包囲する中、代表交渉。話し合いは平行線に終る。その後、メーデー会場から締め出しなど、寄せ場に敵対している総評本部に追及行動を行う。
○特別公共事業を起せ！
○相対方式を許すな！
など。

10月22日 山谷・寿・釜の組合と、名古屋「どっこい人間節を上映する会」の参加で、寄せ場連絡会議結成。

11月15日 公園局による花園公園強制立ち退き、野宿労働者を追い出し、フェンスで囲う。
炊き出しの屋台を移し、食事提供を再開。
夜、釜ヶ崎労働者反撃集会。（桜の宮公会堂）
○山谷自立合同労組
寿日労
名古屋「どっこい人間節」上映委
○北大阪合同労組
○アムコ労組
○大阪市従・釜ヶ崎と連帯する会
○総評全国一般争議団共闘
○人民新聞社
など参加。

11月30日 暴力飯場、山本組（炭木）斗争。

12月26日 モチ代支給、6600円。受給者約17500人。

第7回越冬（76～77）

6月14日の花園公園強制撤去のあとも屋台を持ち込み、炊き出し再開、“仕事よこせ”の斗争拠点として維持されてきた。

7月1日、仕事保障斗争委員会を母体として釜ヶ崎日雇労働組合を結成。
11月15日、早くも越冬つぶしの弾圧が開始された。公園局・大池商事・西成署は数百名の機動隊の動員のもとに公園の強制立ち退きを強行、そして3メートルのフェンスで公園を全面封鎖したのである。

炊き出し拠点を仏現寺公園に移し、反撃越冬の準備へと向う。

12月20日、府・市に要求提出。

- ①特別公共事業を起こせ
- ②釜ヶ崎に無料宿泊所をつくれ
- ③病人を入院させろ
- ④仏現寺公園を越冬に使わせろ

25日、越冬開始。

公園のたき火を消すポリ公の弾圧、そして公園局の公園使用不許可という越冬つぶし策動を打ち破り、1日3食の炊き出し、たき火を囲んでの野宿、毎晩2回の医療パトロールが行なわれる。

労働者と越冬実の分断に失敗した西成署は、1月4日、暴力事件をでっち上げ越冬実代表を逮捕、17日には公園で越冬実メンバー1名逮捕、24日、釜ヶ崎生協事務所をガサ入れ、居合せた越冬実1名を連行。なりふりかまわぬ組織破壊攻撃をかけてきた。これと連動して公園局は炊き出しをつぶそうと画策する。

1月12日、西成署・大池商事・公園局による仏現寺公園“実態調査”、20日立ち退き命令を発するための“聴聞会”、そして24日、現状回復命令がすでに発せられており、強制代執行が準備されつつある事が判明する。この間、3名の逮捕者を出しながらも公園での炊き出し、医療パト、不当逮捕糾弾情宣が続けられ、2月5日越冬実代表の保釈を勝ちとる。

15日、公園局から代執行命令書が郵送されてくる。

内容は2月28日までに公園の仮設雨よけシート・たき火・布団等を強制撤去するというものである。ただちに大阪地裁に執行停止の申し立てを行なう。同時に公園では代執行阻止すべく防衛体制を組み、緊張の続く中、越冬も終盤をむかえる。地裁の決定が遅れたせい、あるいは代執行の社会的反響を恐れたせい、越冬終了日2月29日にいたるも代執行は行なわれなかった。

期間中の炊き出し11315食、野宿労働者数のべ7710人、医療券発行495枚にのぼる。かくて12月25日→2月29日という長期越冬斗争は終る。

しかし炊き出しはこの後も続けられる。

4月6日、大阪地裁は仏現寺テント村撤去の代執行停止申立てを却下、組合は即時抗告するも、市は翌日、高裁判断を待たず代執行を強行、花園公園に続いて二つ目の公園がフェンスによって封鎖され、今日にいたっている。

—「日本最大の日雇い労働者の街に難民キャンプがある。テントも張れず寒空のなかで火にあたる労働者がいる。行政と闘い、暴力飯場との闘い、元請企業との闘いを力強く闘い抜いている労働者がいる。ほかでもない日本の釜ヶ崎萩之茶屋北公園がそこだ。他国での不条理や抑圧に正義の支援を送っている人々よ、自国の足元も見よ！ 生きることすら許されない人々がいるではないか。生きる権利を獲得する闘いに支援を。テントも張れない日本の難民キャンプに支援を。殺人行政やその手先を許さぬ闘いの輪を広げよう！」
(1977年1月15日 人民新聞 より)

1977(昭和52)年

長引く不況の中、売血が増えている実態が報道される。城東区にあるミドリ十字には1日約120人の売血者があり、内40%が釜の労働者だという。1回400ccで1400円だが、新今宮から京橋まで往復210円かかる。当時の土工単価約4500円、認定は2700円である。

- 4月7日 仏現寺越冬仮設テント強制撤去される。
- 4月17日 全国日雇共闘結成。(三里塚斗争を中心として)
 - 釜日労
 - 寿日労
 - 山谷日雇労働者組合(旧S斗委)
- 6月1日 第1回労働者夜間学校。
映画・読み書き教室等。
- 6月24日 柳井建設(大正区)の飯場全焼。
出稼労働者ら12名焼死。
- 7月10日 焼死糾弾総決起集会。(三角公園)
 - 釜日労
 - 山谷Sさんと共に闘う会
 - 寿日労

○全港湾横浜分会

など参加。

- 7月11日 焼死事件をめぐる、労働福祉センターと交渉。
- 7月15日 山光組(尼崎)保険金殺人事件。日雇い8名(?)を殺害し、1億円を詐取。
- 7月16日 タコ部屋、大国興業(姫路)手入れ。
- 7月20日 山光組飯場と労基局糾弾。
- 8月12日 第6回釜ヶ崎夏祭り。
映画「らんるの旗」上映。(この年、三里塚斗争激化)
- 9月×日 「大寅前」の暴力飯場手配師追放斗争。
 - 常松
 - 三井
 - 末八(川西市)
 - 松本(東大阪)
 - 東洋(川崎)
 - 矢追(奈良)
- 10月7日 松本組(東大阪)の賃金不払い、暴力事件について東大阪労基局に抗議。
契約途中で釜に帰り、賃金清算のため飯場に戻ると暴行を受ける。
- 10月26日 四角公園(西成署前)でアオカンの仲間6名が食中毒。
公園で毎夕、組合による炊き出しが行なわれていたが……。
- 11月21日 ドヤ「新大阪」火事で2名死亡、11人中毒。
各階を2段に区切り、更に1部屋1畳の通称「カンオケ」と呼ばれる構造が被害を大きくした。ドヤ「千成」の教訓生かされず。
- 11月28日 全国日雇共闘による労働省交渉。
- 12月25~26日 一時金支給7100円。